

令和3年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策)
事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和3年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			R2	R3	R4		
北海道	上川町	上川町持続可能森林活用協	●	○	□	A	事業計画に基づいた計画が実行されており、評価ができる。

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A・・優良 B・・良好 C・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領の第9の1の(1)の規定に基づき、第三者である○○ ○○から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

北海道大学教授 吉田 俊也

【意見聴取の概要】

令和3年度に行った上川町持続可能森林活用協議会における取組の評価を行った結果、事業計画の目標以上の取組を認める。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	上川町持続可能森林活用協議会	事業開始年度	目標年度	事業実施期間(令和3年度)					
2. 取組振興山村名	上川町持続可能森林活用協議会、上川村	令和2年度	令和4年度	令和3年5月13日～令和4年3月31日					
3. 事業費(うち国費)	9,405,000円(うち国費 9,465,885円)								
4. 第三者氏名	北海道大学教授 吉田 俊也		教育機関関係者	産業界関係者	マスコミ関係者	農林水産業関係者	消費者	その他	
5. 事業評価									
総合評価									
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント) 本取組の根本的趣旨は、これまで活用によって仕事・収入が持続的に行えるような環境の整備である。今回特に一般的に木材市況では困難とされる天然林の中小径木を中心に製品化開発を当協議会は行ってきた。本年度では、販売の実績を行い原木及び板材または開発した製品について確実に現金化はできることを実証した。また商品から森林までをつなぐ事を目指し潜在消費者として一般市民へ向けたツアーの開催を行う等広報にも力を入れたことについて評価ができる。							
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)重点指導対象						
① 取組状況									
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント) 広葉樹資源を扱う上での課題として、特に小中径木に関しては価格がつかず、事業の採算が取れない為適正な森林管理が進まないことが課題。一律的な事業ではなく地域特性に沿ったとして、地元由来の樹種を活用する事や広葉樹資源をいわゆる「雑木」として一括の取引をするのではなく、その細かな条件に応じた活用を目指したことについて評価ができる。							
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)重点指導対象						
、									
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント) 目標値である製品開発目標数及び材の販売単価が目標値以上になった事より一昨年に引き続き感染症の拡大の状況にありながら、着実に活動したことに対し評価ができる。							
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)重点指導対象						
③ 実施体制									
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント) 各役割において取組が進められたと評価できる。							
評価 (該当に○)	(A)	(B)	(C)						
④ その他									

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

別紙2

(任意評価様式第2号)

学識経験者等第三者について

上川町持続可能森林活用協議会

1. 第三者の氏名、住所 ① 氏名： 吉田 俊也 ② 住所： 北海道名寄市字徳田250番地	3. 第三者の経歴 2012年 - 現在 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授 2009年 - 2012年 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授 2011年 北海道大学 准教授 2002年 - 2009年 - 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 助教
2. 第三者に選定した理由 現在、上川町は国立大学法人 北海道大学北方圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部との連携協定に基づき、天然林広葉樹資源の科学的知見に基づいた管理と人材育成を行っている。本協定に基づき吉田氏より日頃より指導を頂いており、同氏においては北海道における広葉樹資源活用において第1線で取組を行われている。従って本取組内容の評価に関し適任であると考え。	1999年 - 2002年 北海道大学助手(農学部附属演習林) 助手

令和3年度	事業開始 2年目	北海道上川郡上川町	上川町持続可能森林活用協議会
-------	-------------	-----------	----------------

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

取組年度	商品開発数	商品改良数	販売商品数	新規雇用者数
令和3年度	4 (7)			

※ 当該年度に開発等した数字を上段に、当該事業で開発等した総数を下段に括弧書きで記載して下さい。

○事業の実施状況

①トレーサビリティシステムのコンテンツについてより森林の様子が充実化を行WEB上でも森の正確な様子について把握可能になった。

②令和2年度に引き続き天然林材の板材加工を行い、そのものについて販売について実証実験を行うと共に製品開発の際に配慮すべきポイントを把握した。

③製品開発を行い、令和3年度末までに7点の製品開発が終了した。

天然林基礎調査(地上レーザー測量)

↓

天然林資源の可用化(板材の作成)

↓

製品開発

↓

販売

↓

継続開発(R4年以降)

データをもとに

→

トレーサビリティシステムの作成
森林モデル構築

↓

意見をもとに

→

コンテンツの拡充(R4年以降)

取組全体を一般市民に説明

→

林業ツアーの実施

○今後の事業構想

開発製品については、引き続き町内観光施設等を中心に販売を行う。販売に関するプロモーションを含め、事業や取組に関する拡大を行うため、新たなクラフト業者に協力をもらいながら、製品開発数をさらに増すことを検討する。またトレーサビリティシステムは現在基礎的なシステムの構築が終了したがクラフト業者及びクラフトの一般購入者向けにページの充実等コンテンツの拡充を行う必要がある。

商品開発(7点)



カードケース



積木



こけし



コマ



ベッドサイドランプ



食器+ククサ

参考資料（取組の紹介記事等）

上川町持続可能森林活用協議会



林業のバックヤードツアーの開催

上川の森からできたクラフト 神蔵



クラフトにフォーカスしたホームページの作成